

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和 年 月 日※1
(前回公表年月日:平成 年 月 日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
東京スクールオブミュージック専門学校渋谷	平成13年10月29日	山本敬史	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目19番21号 (電話) 03-3688-2205																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養専門課程	パフォーマンスアーツ科 (昼間部一)	平成28年文部科学省 告示第19号																								
学科の目的	エンターテインメント業界に必要な音楽的知識及び、パフォーマンス力を構築し、メディア、舞台、映画、などエンターテインメント業界の即戦力となる人材育成を目指す。																										
認定年月日	平成28年2月19日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2	昼間	114	111	156	84																						
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数		単位																				
160人	71人	7人	4人	45人	49人																						
学期制度	■1学期(前期):4月1日～9月30日 ■2学期(後期):10月1日～3月31日	成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 学業成績は、授業科目ごとに行う試験(定期試験、実技試験等)によって評価される。本校では各授業の評価を100点満点を基準として、60点以上を合格としている。合格者の中でも評価点数により、100～90をA、89～80をB、79～70をC、69～60をD、59～0をF(不合格)として成績が通知される。																								
長期休み	■春季:3月14日～4月7日 ■夏季:7月21日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月5日	卒業・進級 条件	学期ごとに試験を行い、また最終学年の終わりには、卒業試験を行う。科目の成績評価及び進級・卒業判定会議の審議に基づき、進級、課程修了の認定を行う。ただし、演習、実習については演習、実習の成績によって修了を認定することができる。																								
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 担任制を導入し、学期ごとの個人面談や進路相談等を行っている。また授業外で基礎スキル習得のサポートを行う補習授業を展開している。また意欲のある学生向けの特別課題も設定し、より上位を目指す環境も構築している。	課外活動	■課外活動の種類 学園祭等の実行委員会 ■サークル活動: 無																								
就職等の 状況※2	■主な就職先・業界等(平成30年度卒業生) 株式会社ノア サウンドスタジオノア、有限会社クリエイターゼロ ■就職指導内容 希望者へはキャリアセンターによる進路相談の他、履歴書添削、ポートフォリオ指導、面接対策等を実施している。 ■卒業生数 : 24 人 ■就職希望者数 : 0 人 ■就職者数 : 0 人 ■就職率 : 0 % ■卒業生に占める就職者の割合 : 0 % ■その他 ・進学者数:9人 ・その他 :15人 (平成 30 年度卒業生に関する 平成31年5月1日 時点の情報)	主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他(民間検定等) (平成30年度卒業生に関する令和元年5月1日時点の情報) <table border="1"><thead><tr><th>資格・検定名</th><th>種</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>なし</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></tbody></table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄					資格・検定名	種	受験者数	合格者数	なし															
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
なし																											
中途退学 の現状	■中途退学者 13 名 平成30年4月1日時点において、在学者78名(平成30年4月1日入学者を含む) 平成31年3月31日時点において、在学者65名(平成31年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 経済的理由、病気・治療、学生生活不適合、進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任による個人面談の他、保護者を含めた三者面談や学生相談センターによるカウンセリング等も実施している。	■中退率 17 %																									
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 無 ※有の場合、制度内容を記入 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL)																										
当該学科の ホームページ URL	https://www.shibuya.ac.jp/school/public_info/index.html																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

音楽・エンタテインメント業界において、人に感動や喜びを与えられる人材としての即戦力が身に付けられるよう、職業人教育を実施していくために、業界が必要とする人材を業界と共に育成する、産学協同教育システムのもと、すべての教育課程を編成している。

具体的には主に次の3つを基本方針としている。

- 1.専任教員と業界で現役として活動している兼任教員による講師会議にて、現在の在学生の状況を踏まえ、業界に求められる即戦力を育成するための方策を検討、授業内容の改善を図る。
- 2.普段は授業等で学生と関わらない、第3者として助言を受けることで、学生の現状を切り離れた業界からの要望を把握するため、教育課程編成委員会を設置。業界動向や、業界の方の意見、要望などを取り入れ、授業内容の見直しや授業方法の改善・工夫等を行う。
- 3.学校主催の合同企業説明会への参加企業、業界研修の受け入れ先企業、授業への企業課題の提供をいただいている企業から情報提供を得て、今後求められる即戦力を把握。授業内容の改善に活かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、理事会のもとで各校ごとの委員会が設置され、(添付教育課程編成委員会規程参照)、委員会の適切な運営は理事長が担保する。また、学校運営においては、教員組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に活かし、実績的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営する。

具体的には次の流れで教育課程を作成する。

教務部が学生の学習状況や学生の目指す業界の状況から原案を作成する。原案は第1回教育課程編成委員会にて吟味し、業界事情を鑑みた指摘事項を教務部に提示する。指摘事項を元に再度教務部にて調整を行い、第2回教育課程編成委員会にて確認を受ける。その後、学校長の承認をもって最終決定となる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和1年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
池田 正義	一般社団法人 日本音楽制作者連盟	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	①
西川 進	株式会社 スマツシュルーム	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	③
山本 敬史	学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	
斎藤 幸江	学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	
北澤 和宏	学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	
西片 悠人	学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	
滝波 栄一郎	学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	
相原 充伸	学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 10月および3月に実施

(開催日時(実績))

第1回:2018年9月28日(木)14:30～16:00

第2回:2019年3月8日(金)11:00～12:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第1回の委員会で頂いた意見に基づきカリキュラムを作成。第2回の委員会にて報告し、承認を経て以下のように改定し、実施している。
次年度はシラバスにおける評価方法について考えることで、まずは講師から学生へのフィードバックの大切さを再認識してもらう。
またセルフプロデュースは「キャリア教育」という授業を設定し、その中で行っていく。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

業界が求める人材を業界とともに育成する「産学連携教育」を基本方針とし、専門技術・知識、並びに人間力を持ち合わせた人材の育成を行うため、企業から仕事を課題としていただく「企業プロジェクト」を通して実践的な授業を展開する他、現場の第一線で活躍するプロに兼任教員を依頼するなど、授業内容を業界関係者と共に企画立案し、その実施・達成度評価を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

<プロジェクト概要>

【目的】

インディーズ、メジャーデビューを目的に、企業課題を元にプロフィール作成、オリジナル楽曲制作とアンサンブルワークショップを開催、企業課題と様々なイベントで演習することにより実践的なスキルを身につける。

【プロジェクト内容】

楽曲制作の方法論を学び、オリジナルの楽曲を制作。

具体的には作曲から演奏、オーディション対策からステージングまでの工程を学び、修正点を具体的に直す技法を習得。

【連携内容】

企業は業界視点で学生の課題を発見し、必要な情報を提供することでプロのクオリティに近づくアドバイスを行う。

学校はプロジェクトが円滑に進むよう、コンセプトの決定や企業から与えられた課題への学生フォローを行う。

<評価方法>

【学校】出席率、資料提出期日、自己PRの構成力が個々のスタイルにあっているか評価

【企業】楽曲のクオリティとライブとしてステージ、イベントコンセプトにあったステージングであるか評価

【その他】顧客満足度をステージ実習の際、来場した企業、一般来場者へアンケート調査を行い評価

実施期間：平成29年4月1日～9月30日

企業評価日：1回目平成29年6月13日 2回目平成29年7月4日

学校評価日：平成29年9月30日

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ステージパフォーマンス	携わったプロジェクトについて、楽曲制作、ステージング、プロモーション法を学び、業務で実際に活かせるようにしま	株式会社エムズレコーズ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

学園の定める教職員規程において、教員の授業内容・教育技法の改善並びにクラス運営の向上、マネジメント能力を含む指導力の向上を研修の目的と定めている。

昨年度においては、業界の現状と動向についての把握と具体的な必要とされるスキルを学ぶ研修、および中途退学者防止に向けた「学生一人ひとり」に対する対応策の企画立案・実施・評価というPDCAサイクルを展開することを年間の教育活動の中心とし、以下の要素が年間の授業内容に反映されるよう研修を行った。

- ① キャリア教育の視点
- ② カリキュラム改善、教育技法の改善

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「春季講師研究会」(連携企業等: 有限会社クリアー、ireco株式会社、エイベックス株式会社)

期間: 3月17日 対象: 全教員

内容: 「マネジメント理論」「楽曲制作」「デジタルマーケティング」をテーマに研修を実施。

研修名「秋季講師研究会」(連携企業等: 有限会社クリアー、ireco株式会社、株式会社チームアクティブ)

期間: 9月19日 対象: 全教員

内容: 「マネジメント理論」「楽曲制作」「イベント制作概論」をテーマに研修を実施。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「春季講師研究会」(連携企業等: ダンススクウェア 劇団青年座)

期間: 3月18日 対象: 全教員

内容: キャリア教育支援を強化するため、現在の若者が抱く職業観と現実のギャップを考える研修を行った。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「春季講師研究会」(連携企業等: 有限会社クリアー、ireco株式会社、エイベックス株式会社)

期間: 3月20日 対象: 全教員

内容: 業界の動向と専門分野における実務に関する知識・技術・技能について実施する。

研修名「秋季講師研究会」(連携企業等: 有限会社クリアー、ireco株式会社、株式会社チームアクティブ)

期間: 9月21日 対象: 全教員

内容: 業界の動向と専門分野における実務に関する知識・技術・技能について実施する。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「春季講師研究会」(連携企業等: ダンススクウェア 劇団青年座)

期間: 3月19日 対象: 全教員

内容: 産学連携教育の重要性とその中で教員に求められる指導力についての研修を行う。

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

卒業生、保護者代表、近隣関係者並びに、業界関係者により構成される学校関係者評価委員会を組織し、この委員会が、学校教職員が行った自己点検・自己評価の内容を審議・評価することを通じ、学校運営の改善に生かす事を方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目的・育成人材像
(2)学校運営	運営方針 事業計画 運営組織 人事・給与制度 意思決定システム 情報システム
(3)教育活動	目標の設定 教育方法・評価等 成績評価・単位認定等 資格・免許取得の指導體制 教員・教員組織
(4)学修成果	就職率 資格・免許の取得率 卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路 中途退学への対応 学生相談 学生生活 保護者との連携 卒業生・社会人
(6)教育環境	施設・設備等 学外実習、インターンシップ等 防災・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動 入学選考 学納金
(8)財務	財務基盤 予算・収支計画 監査 財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令、設置基準等の遵守 個人情報保護 学校評価 教育情報の公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献 ボランティア活動
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

職業人教育を通じて社会に貢献できるよう、健全な経営基盤を持つ学校運営を目指す。そのために、学校評価委員会の委員からの意見を踏まえて、教育活動・環境の充実や学生支援の強化などの改善をしている。

具体的には、渋谷での地域貢献について評価とより一層の要望があったため、ゴミ拾い等のボランティア活動の活発化を推進する取り組みを実施した。
また機材については修理対応すべきもの、新規導入すべきものを精査し、対応する計画を立てた。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和1年7月1日現在

名前	所属	任期	種別
向田 優希	株式会社エスエム・エンタテインメント・ジャパン	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	卒業生代表
目黒 英理子	保護者	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	保護者代表
菅野 英雄	渋谷宮益商店街振興組合	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	地域関係者
池田 正義	一般社団法人 日本音楽制作者連盟	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	業界関係者
西川 進	株式会社 スマッシュルーム	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	業界関係者
今井 正喜	株式会社クレッセ	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	業界関係者
明地 権	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	業界関係者
松原 憲	有限会社スーパーラブ	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	業界関係者
小林 玄	ICHIZA株式会社	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	業界関係者
平野 智也	株式会社サウンドキューブ	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	業界関係者
横山 元一	株式会社 プラナ	2019/4/1～2021/3/31 (任期2年)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: http://www.shibuya.ac.jp/information/public_info/index.html

公表時期: 令和1年9月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページによる情報公開の他、学校主催の合同企業説明会や卒業・進級制作展などのイベント時での説明会、卒業生の就職先やインターンシップ等受け入れ先への直接訪問によって情報提供を行う。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要 沿革 建学の理念 学校安全関連
(2) 各学科等の教育	受入方針 定員 カリキュラム 卒業判定基準 卒業と同時に取得する称号
(3) 教職員	教職員数 教員の業績
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取り組み 産学連携教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	校舎設備紹介 海外実学研修
(6) 学生の生活支援	中途退学防止への取り組み 健康管理
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧 奨学金・教育ローン案内

(8)学校の財務	財務資料
(9)学校評価	学校関係者評価結果
(10)国際連携の状況	留学生支援 留学生の受入状況 外国の学校等との交流状況
(11)その他	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
URL: http://www.shibuya.ac.jp/information/public_info/index.html

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 パフォーマンスアーツ科(昼間部))															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			キャリア教育 1	社会人基礎知識、ビジネスマナー、就職活動アドバイス、様々なイベントの準備、企業の方によるセミナー等を実施する。	1	30	2	○			○	○			
○			キャリア教育 2	実践的なビジネスマナーを身に付け、様々なイベントへの参加、企業の方によるセミナー等を主体的に就職活動が行えるよう実施する。	1	30	2	○			○	○			
○			キャリア教育 3	社会人基礎力を具体的に発揮し、主体的に就職活動や様々なイベントへの参加、企業の方によるセミナー等を実施する。	2	30	2	○			○	○			
○			キャリア教育 4	社会に出る上での基本的なマナーの定着、2年間の振り返りを行い、自己を見つめ直すPDCAを学ぶ。	2	30	2	○			○	○			
○			ミュージックセオリー 1-1	音楽の言語となる理論を、音楽コミュニケーションの基本から学び、読譜からアレンジまで実践的な要素を学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
○			ミュージックセオリー 1-2	音楽の言語となる理論を、音楽コミュニケーションの基本から学び、読譜からアレンジまで実践的な要素を学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
○			ミュージックセオリー 2-1	音楽の言語となる理論を、音楽コミュニケーションの応用を学び、読譜からアレンジまで実践的な要素を学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
○			ミュージックセオリー 2-2	音楽の言語となる理論を、音楽コミュニケーションの応用を学び、読譜からアレンジまで実践的な要素を学ぶ。	1	30	2	○			○			○	
○			イヤートレーニング 1-1	音楽理論を耳で理解し、音程感やリズム感の基礎を養う。	1	30	2	○			○			○	
○			イヤートレーニング 1-2	音楽理論を耳で理解し、音程感やリズム感の基礎を養う。	1	30	2	○			○			○	
○			イヤートレーニング 2-1	音楽理論を耳で理解し、音程感やリズム感の応用を養う。	1	30	2	○			○			○	
○			イヤートレーニング 2-2	音楽理論を耳で理解し、音程感やリズム感の応用を養う。	1	30	2	○			○			○	
	○		Basic Keyboard 1	読譜感覚の強化などピアノのプレイングテクニックの基礎を習得する。	1	30	2		○		○			○	
	○		Basic Keyboard 2	読譜感覚の強化などピアノのプレイングテクニックの応用を習得する。	1	30	2		○		○			○	
	○		Information Technology 1	ミュージシャンに必要なPCスキルを習得し、セルフプロデュース力を養う。	1	30	2	○			○			○	
	○		Diction 1	正しい英語の発音、表現力を歌の中で実践し基礎力を身に付ける。	1	30	2	○			○	○			

				正しい英語の発音、表現力を歌の中で実践し応用力を身に付ける。	1	30	2	○			○		○	
				JAZZダンスを通して、ダンスの基礎を身に付ける。	1	30	2		○		○			○
				JAZZダンスを通して、ダンスの基礎を身に付ける。	1	30	2		○		○			○
				ダンスや振り付けを入れ、ソロ、グループ、様々な形態で歌うとレーンを行う。聴きあうことで適切な会話、コミュニケーションの応用ができるようになる。	1	60	4		○		○			○
				ダンスや振り付けを入れ、ソロ、グループ、様々な形態で歌うとレーンを行う。聴きあうことで適切な会話、コミュニケーションの応用ができるようになる。	1	60	4		○		○			○
				K-POPを用いてその特徴をマスターする。	1	30	2		○		○			○
				K-POPを用いてその特徴をマスターする。	1	30	2		○		○			○
				ダンスにおける、体の使い方とリズムの取り方を学ぶ。	1	30	2		○		○			○
				ダンスにおける、体の使い方とリズムの取り方を学ぶ。	1	30	2		○		○			○
				INST楽曲のセッションアンサンブルのスキルの応用を学び習得する。	1	60	4		○		○			○
				INST楽曲のセッションアンサンブルのスキルの応用を学び習得する。	1	60	4		○		○			○
				ヴォーカルとしての基本的な発声法、また人間力、歌唱力をグローバルスタンダードを通して学ぶ。										
				基本的なコードを学び、適切なボーイングで簡単な伴奏が出来るようになる。										
				様々なコード進行に対するベース音のチョイスの仕方についてを学び、習得する。	1	30	2		○		○			○
				スティックコントロールやペダルワークなどを学び、習得する。										
				ワールドスタンダードなビートパターンを習得する。										
				ヴォーカルとしての基本的な発声法、また人間力、歌唱力をグローバルスタンダードを通して学ぶ。										
				基本的なコードを学び、適切なボーイングで簡単な伴奏が出来るようになる。										
				様々なコード進行に対するベース音のチョイスの仕方についてを学び、習得する。	1	30	2		○		○			○

○	expression C-2	Ba chordwork 2	コード進行の分析を行い、楽曲の制作、コード進行にあったスケールの把握を習得する。	1	30	2	○	○	○
		Percussion 2	ミュージシャンに必要なリズム感を習得する。						
		Key chordwork 2	コード進行の分析を行い、楽曲の制作、コード進行にあったスケールの把握を習得する。						
○	Band Ensemble A-1	Gt style1	バンドアンサンブルの楽曲に対する、ギタリストとしてのステージング、リズム、奏法を学び習得する。	1	30	2	○	○	○
		Ba style1	バンドアンサンブルの楽曲に対する、ベーシストとしてのステージング、リズム、奏法を学び習得する。						
		Dr style 1	バンドアンサンブルの楽曲に対する、ドラマーとしてのステージング、リズム、奏法を学び習得する。						
		Key style 1	バンドアンサンブルの楽曲に対する、キーボーディストとしてのステージング、リズム、奏法を学び習得する。						
○	Band Ensemble A-2	Gt style2	バンドアンサンブルの楽曲に対する、ギタリストとしてのステージング、リズム、奏法を学び習得する。	1	30	2	○	○	○
		Ba style2	バンドアンサンブルの楽曲に対する、ベーシストとしてのステージング、リズム、奏法を学び習得する。						
		Dr style2	バンドアンサンブルの楽曲に対する、ドラマーとしてのステージング、リズム、奏法を学び習得する。						
		Key style 2	バンドアンサンブルの楽曲に対する、キーボーディストとしてのステージング、リズム、奏法を学び習得する。						
○	Band Ensemble B-1		ステージを使用しそれぞれの時代の代表的な楽曲をバンドアンサンブル学び習得する。	1	60	4	○	○	○
○	Band Ensemble B-2		ステージを使用しそれぞれの時代の代表的な楽曲をバンドアンサンブル学び習得する。	1	60	4	○	○	○
○	DTM 1		コンピュータソフトを使用して音楽制作を行なうために、DAWソフトLogicを通して操作方法を習得する。MIDIの基本的な概念も学ぶ。	1	30	2	○	○	○
○	DTM 2		コンピュータソフトを使用して音楽制作を行なうために、DAWソフトLogicを通して操作方法を習得する。MIDIの基本的な概念も学ぶ。	1	30	2	○	○	○
○	Music History 1		ウエスタンミュージックの歴史について学ぶ。	1	30	2	○	○	○
○	Music History 2		ロック・ポップスの歴史について学ぶ。	1	30	2	○	○	○
○	Arranging 1		楽曲制作におけるアレンジの基礎を学ぶ。	1	30	2	○	○	○
○	Semi Private Lesson 1		少人数制のレッスンで、個々のスタイルを習得する。	1	30	2	○	○	○

○	Music History 4	アフリカンミュージックについて学ぶ。	2	30	2	○		○		○
○	Vocal Performance 3	ダンスや振り付けを入れ、ソロ、グループ、様々な形態で歌うとレーンを行う。	2	60	4	○		○		○
○	Vocal Performance 4	ダンスや振り付けを入れ、ソロ、グループ、様々な形態で歌うとレーンを行う。	2	60	4	○		○		○
○	Jazz Dance 3	JAZZダンスを通して、ダンスの基礎を身に付ける。	2	30	2	○		○		○
○	Jazz Dance 4	JAZZダンスを通して、ダンスの基礎を身に付ける。	2	30	2	○		○		○
○	Hip Hop Dance 3	体の使い方、アップとダウンのリズムの取り方を学ぶ。	2	30	2	○		○		○
○	Hip Hop Dance 4	体の使い方、アップとダウンのリズムの取り方を学ぶ。	2	30	2	○		○		○
○	Piano Duo 3	ピアノ伴奏で歌い、一対一で対話することを体感し基礎アンサンブル力を身につける。	2	30	2	○		○		○
○	Piano Duo 4	ピアノ伴奏で歌い、一対一で対話することを体感し応用のアンサンブル力を身につける。	2	30	2	○		○		○
○	Chorus Work 1	トレーニングの基礎を活かし、聴きあいハーモニーを作ること学ぶ。	2	30	2	○		○		○
○	Chorus Work 2	トレーニングの基礎を活かし、聴きあいハーモニーを作り、またリアレンジできるようになる。	2	30	2	○		○		○
○	Broadway Seminar 1	ブロードウェイで公演されている様々な演目を学び、曲、歌、表現、全ての分野での一流の技術を学ぶ。	2	60	4	○		○		○
○	Broadway Seminar 2	ブロードウェイで公演されている様々な演目を学び、曲、歌、表現、全ての分野での一流の技術を学び応用できるようになる。	2	60	4	○		○		○
○	Self Development 1	自己表現の様々な手法を習得する。	2	30	2	○		○		○
○	Self Development 2	自己表現の様々な手法を習得する。	2	30	2	○		○		○
○	Basic Keyboard 3	読譜感覚の強化などピアノのプレイングテクニックを習得する。	2	30	2	○		○		○
○	Basic Keyboard 4	読譜感覚の強化などピアノのプレイングテクニックを習得する。	2	30	2	○		○		○
○	Percussion 1	民族楽器の知識と基本的な演奏方法を習得する。	2	30	2	○		○		○
○	Percussion 2	民族楽器の知識と基本的な演奏方法を習得する。	2	30	2	○		○		○

○		Funk Ensemble 1	FUNK, DISCOミュージックを通して、グルーヴすることを学ぶ。	2	30	2	○	○	○									
○		Funk Ensemble 2	FUNK, DISCOミュージックを通して、グルーヴすることを学ぶ。実際にパフォーマンスを行い実践力を身につける。	2	30	2	○											○
○		Soul &Pops Ensemble 1	SOUL, POPSミュージックを通して、アンサンブル、音楽の歴史を学ぶ。	2	30	2	○											○
○		Soul &Pops Ensemble 2	SOUL, POPSミュージックを通して、アンサンブル、音楽の歴史を学ぶ。実際にパフォーマンスを行い実践力を身につける。	2	30	2	○											○
○		Rock Ensemble 1	ROCKミュージックを通してアンサンブルを学び、実際にパフォーマンスを行う。	2	30	2	○	○										○
○		Rock Ensemble 2	ROCKミュージックを通してアンサンブルを学び、実際にパフォーマンスを行い実践力を身につける。	2	30	2	○											○
○		著作権 1	音楽ビジネスを展開していくうえで必要不可欠な著作権の知識、音楽に関する権利関係及び業界の現状を学ぶ。	2	30	2	○											○
○		著作権 2	音楽ビジネスを展開していくうえで必要不可欠な著作権の知識、音楽に関する権利関係及び業界の現状を学ぶ。	2	30	2	○											○
○		Protools 1	PRO TOOLSのスタンダードな使い方を身につける。	2	30	2	○			○								○
○		Protools 2	PRO TOOLSのスタンダードな使い方を身につけ応用に繋げる。。	2	30	2	○			○								○
○		作編曲 1	音楽理論に基づき、コンピュータを通しての作曲法を学ぶ。	2	30	2	○			○								○
○		作編曲 2	音楽理論に基づき、コンピュータを通しての作曲法を学び実践できる。	2	30	2	○			○								○
○		Semi Private Lesson 1	少人数制クラスにより、個々のスタイルにあわせたプログラム	2	30	2	○			○								○
○		Semi Private Lesson 2	少人数制クラスにより、個々のスタイルにあわせたプログラム	2	30	2	○			○								○
○		expression A 3	Vocal Traning 3	ヴォーカルとしての基本的な発声法、また人間力、歌唱力、パフォーマンスをグローバルスタンダードを通して学ぶ。	2	30	2	○	○	○								
	Gt hamonic concept 3		コード理論やボイスिंगを学び、習得する。															
	Ba bassline concept 3		様々なコード進行に対するベース音のチョイスの仕方についてを学び、習得する。															
	Dr control Theory 3		様々なジャンルとそのビートの関係を習得する。															
	Key plaing technic 3		読譜感覚の強化などピアノのプレイングテクニックを習得する。															

○	expression A-4	Vocal Training 4	ヴォーカルとしての基本的な発声法、また人間力、歌唱力、パフォーマンスをグローバルスタンダードを通して学ぶ。	2	30	2	○	○	○
		Gt harmonic concept 4	ギターに必要なハーモニーの応用を学ぶ。						
		Ba bassline concept 4	ベーシストとして様々なスタイルのベースラインを作曲する。						
		Dr control Theory 4	様々なコード進行に対するベース音のチョイスの仕方についてを学び、習得する。						
		Key plaing technic 4	読譜感覚の強化などピアノのプレイングテクニックを習得する。						
○	expression B-3	Vocal Leading 5	リズム、音程の基礎を学び、実際に歌うことと繋げるトレーニングを行い、アカペラでハーモニーを作れるようになる。	2	30	2	○	○	○
		Gt melodic concept 3	音階を学び、ソロアプローチ法やテクニックを習得する。						
		Ba groove analyze 3	ベーシストが知るべき世界中のリズムを習得する。						
		Dr groove maiking 3	ワールドスタンダードなビートパターンを習得する。						
		Key harmonic concept 3	メロディー、ハーモニー、リズムのバランス感覚をボード上でのアプローチスキルを習得する。						
○	expression B-4	Vocal Leading 7	リズム、音程の基礎を学び、実際に歌うことと繋げるトレーニングを行い、アカペラでハーモニーを作れるようになる。	2	30	2	○	○	○
		Gt melodic concept 4	音階を学び、ソロアプローチ法やテクニックを習得する。						
		Ba groove analyze 4	ベーシストが知るべき世界中のリズムを習得する。						
		Dr groove maiking 4	ワールドスタンダードなビートパターンを習得する。						
		Key harmonic concept 4	メロディー、ハーモニー、リズムのバランス感覚をボード上でのアプローチスキルを習得する。						
○	expression C-3	Vocal Leading 6	リズム、音程の基礎を学び、実際に歌うことと繋げるトレーニングを行い、アカペラでハーモニーを作れるようになる。	2	30	2	○	○	○
		Gt chordwork 3	コード進行のアナライズを行い、楽曲の制作、コード進行にあったスケールの把握を習得する。						
		Ba chordwork 3	コード進行のアナライズを行い、楽曲の制作、コード進行にあったスケールの把握を習得する。						
		Percussion 3	ミュージシャンに必要なリズム感を習得する。						

○	現場実習 (1) ~ (10)	業界から依頼を受け撮影/収録 (ドラマ・映画・PV・アフレコ・ヘアメイク) へ参加。現場を経験することでプロとしてスキル、マインドを身につける。	-	45	1			○						
○	LIVE・舞台観賞 (1) ~ (10)	学内外のライブや舞台の鑑賞。	-	45	1			○						
○	業界研修 (1) ~ (10)	インターンシップ生として現場に出向き、ビジネスマナーを身につける。	-	45	1			○						
○	合同企業説明会 (1) ~ (4)	合同企業説明会に臨むために資料を作成し、自身をプレゼンテーションするスキルを身につける。	-	45	1			○						
○	デビュープロジェクト (1) ~ (4)	特別講義や資料作成、アーティスト写真撮影を行い、デビューへ向けて準備。	-	45	1			○						
○	新人発掘プレゼンテーション (1) ~ (4)	新人発掘に臨むための内容を考え、プレゼンテーションをする。	-	30	1			○						
○	レコーディング ヴォイスサンプルRec (1) ~ (4)	歌やバンドのレコーディングを行う。デビュー活動の際のプレゼンツールとして使用できるように制作する。	-	45	1			○						
○	業界ゼミ (1) ~ (4)	週4時間の業界セミナーを実施。それぞれの業界の特徴や必要となる人材を伝えてもらい、卒業後の進路に役立てる。	-	40	2			○						
○	国際プログラム (MIP・DIP) (1) ~ (4)	Billboard Live等と提携し海外ゲストを招聘する特別ゼミにて、業界における英会話力を高める。	-	16	1			○						
○	各種イベント制作 (1) ~ (4)	学内イベントへのスタッフ参加により視野を拡げ、現場力、コミュニケーションスキルを身に付ける。	-	15	1			○						
○	業界研究・職種研究 (1) ~ (4)	業界についての研究・業界内で活動する職種への研究を通じて、業界知識を理解する。	-	45	1			○						
○	姉妹校単位互換制度	他学科の科目を履修し、業界基礎力を向上させる。(Wメジャー科目を履修し、成績により認定)	-	-	-									
○	他学科単位互換制度	他学科の科目を履修し、業界基礎力を向上させる。(Wメジャー科目を履修し、成績により認定)	-	-	-									
合計			200科目			6980単位時間(351単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
学期ごとに試験を行い、また最終学年の終わりには、卒業試験を行う。その授業科目の成績評価及び卒業判定会議の審議に基づき、課程修了の認定を行う。ただし、演習、実習については演習、実習の成績によって修了を認定することができる。		1学年の学期区分	2期
		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。